

# 本社屋を「ZEB」に

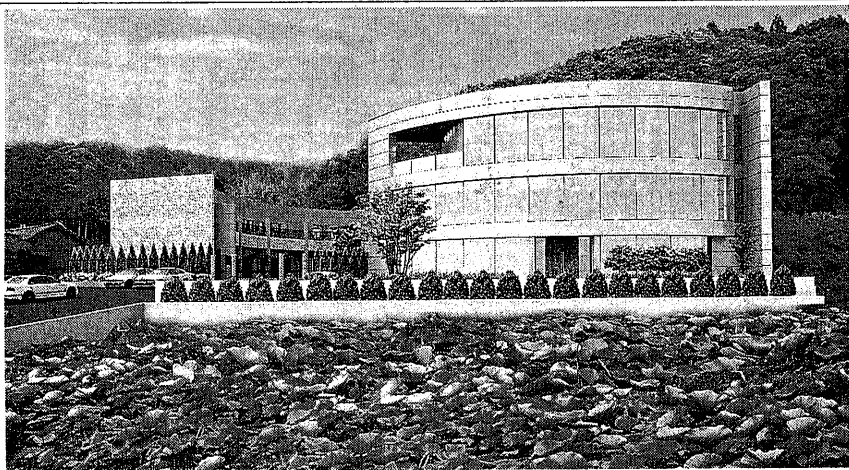
## 来春完成予定 最新の環境技術採用

### 藤崎建設工業

藤崎建設工業(行方市新宮、藤崎政行社長)は、ゼロ・エネルギー・ビル(ZEB)の新社屋を建設する。最新の環境技術により、ビルの年間1次エネルギー消費量を正味ゼロとする先進的な取り組み。来春の完成を予定する。藤崎社長は「中小企業ながら、低炭素社会の実現へ少しでも役立ちたい」と話す。

同社によると、現在、全国で建設されているZEBは、大手建設会社の実証実験棟が大半を占める。中小企業の取り組みは珍しいという。

新社屋は、現社屋の敷地内に建設する。鉄骨3階建て、延べ床面積651平方メートル。12日に地鎮祭を行い、関係者が工事の安全を願った。



計画によると、ZEB実現のシステムとして、太陽光発電▽日射追従型電動ブラインド▽井水熱利用ヒートポンプ▽LED・照明制御▽太陽熱利用給湯器▽ビルエネルギー管理システム(BEMS)▽高性能断熱材・高反射塗料

藤崎建設工業の新社屋イメージ

料などを採用する。建設計画は、当初から環境に配慮していた。経済産業省のZEBロードマップ検討委員会での論議を経て基準が示されたため、さら

に省エネとなるZEB実現計画に修正した。建設に当たっては、環境資源団体の「ZEB実現に向けた先進的省エネルギー建築物実証事業」の補助採

択を受けた。エネルギー削減率が50%以上となる空調や換気、照明などの導入が対象となる。補助率は最大3分の2。政府は2030年のCO2



地鎮祭で工事の安全を願う藤崎政行社長＝行方市新宮

削減の目標達成には、業務その他の部門で3〜4割の削減が必要と判断。業務用ビルなどの大幅な低炭素化が欠かせないとして、既存ビルの省CO2化の促進や、先進的な業務用ビルの普及を目指している。藤崎社長は「将来を考えると、環境への配慮は不可欠。地域の中小企業として取り組むことで、ZEBの普及に少しでも役立ちたい」と話した。(久保浩)